



～今年いちばん感動したこと～



印藤晴子

早いもので、もう2013年を振り返る時期となりました。皆さんの今年いちばん感動したことは何でしょうか？私はい、最近まで1か月近くASEANへ出張していたため、その記憶が鮮明です。ベトナムでは食あたりを遭って苦しみました。2週間のハードスケジュールをこなすことができました。「やればできる」という自信と、自社のサプリの力に確信がもてた良い経験となりました。

月刊 つばさ



2013年12月号

私たちは、皆さまを新たな発展と飛躍へ導く“翼”となります。



感動は日々していますが、今年、還暦を迎えまして。子どもたちが「還暦ツアー」と題して、湯布院へ温泉旅行に連れて行ってくれました。途中、九重町にある日本一長い吊り橋を渡ることになったのですが、高所恐怖症の私は足がすくんで。でも「ここからが私の新たな人生！」と気持ちを奮い立たせ、下を見ず、歯を食いしばって、往復しました。降りきった時は一人で感動しました！…2歳の孫は平気な顔で渡ってましたけど(苦笑)。



石原洋子

3歳の娘がよく似顔絵を描くようになりました。〇とか一とかだけの簡単な顔ですが、なんとなく似てるんですよ(親バカですね)。先日、娘が「パパ」と文字が入った僕の似顔絵をくれました。全部〇で描かれた顔でしたが、嬉しくて、嬉しくて紙のままだと傷むから、すぐデータ保存しました。今年もいっぱい感動がありました。一つ選べと言われたら、これかなあ(笑)。来年も再来年も娘から似顔絵を描いてもらえますように。



重富幸治郎

今年いちばんの感動は、2020年に東京オリンピックが決まったこと！ニュースで招致活動の詳細も伝えられて、どれだけ苦労したかわかったから、決まった時はすごく感動しました。1964年にも東京でオリンピックは開催されたのですが、幼すぎたせいか、私にはまったく記憶がありません。なので2020年には、実際に東京へ行って観戦と応援がしたいです。そのために来年から、東京オリンピック観戦ツアー積立を始める予定です(笑)。



古賀ちはる

今年も仕事をしながら、演劇やダンスの舞台に精力的に出させていただきました。今年の事件は舞台の後輩男性が7kgも太り、「やせなさい」と忠告するも、なかなかダイエットを始めないので、「夜9時以降は食べない」ルールを2人で守ろうと提案しました。夜遅く食事をする習慣があった私は大変で、9時前5分から慌てて食べたのですが、1か月で私は2kg、後輩はなんと5kgも痩せたのです。彼が見事に変身し、舞台が成功した時は、人知れず感動したのでした。



重松順子

感謝の心がもたらすもの。



今年度から始めた社内企画があります。8月に「親孝行手当」なるものをスタッフ全員に支給しました。金額は1人1万円。その1万円は親孝行のために使うこと。どんな親孝行をしたのかを10月末までにレポートで提出すること。全員のレポートは社内には貼り出し、みんなで読んで投票し、「親孝行大賞」を決めようというものです。

11月に入って大賞受賞者が決まりました。そのレポートには次のようなことが書かれていました。

「うちには昔から記念日にお祝いをする習慣がありませんでした。それで親孝行手当をいただいた時、何に使えばよいのかわからず、正直に母に相談しました。そして、母が欲しいと言ったウォーキングシューズをプレゼントしたのです。靴をあげた時、母は本当に嬉しそうな顔をしました。こんなに喜んでくれるのなら、もっと前からプレゼントすればよかった、と思いました。来年の母の誕生日は自分のお金でお祝いしたいと思います」

親孝行手当はずいぶん前に本で知り、いつか取り入れたいと思っていました。今年、母が他界したことで、スタッフにも親が健在のうちに感謝の気持ちを示してほしいと思ったのがきっかけです。私たちが今生きているのは、両親と祖父母、それ以前の先祖が命を繋げてきてくれたからに他なりません。そのことに感謝できる人間でありたいし、スタッフにもそうあってほしいと思います。

親孝行手当は仕事には関係ありません。けれど、感謝の心をもつのは、お客様に対しても同じ。心の在り様は行動に現れると信じています。

株式会社ORTIC
代表取締役

印藤晴子



古賀ちはるの旬なハナシ

寒くなると、なぜ風邪やインフルエンザが流行るのでしょうか？それは空気が乾燥し、喉や鼻の粘膜も乾燥してしまうため、ウイルスや細菌に抵抗する力(免疫力)が弱まってしまうからです。でも冬ならではの風邪対策があります。それは季節の食材を上手に使うこと！ビタミンAには免疫機能を維持

し、皮膚や粘膜の健康を保つ働きがあります。ほうれん草、小松菜、大根やカブの葉に多く含まれます。ビタミンCも免疫力を高め、風邪などの感染を防ぎ、回復も早める働きがあります。ブロッコリーや長ネギ、大根などに含まれています。旬の食材を美味しく食べて、風邪に負けない体をつくりましょう。



健康長寿を目指して。サプリはなし「すっぽん梅肉黒酢」誕生しました!

長寿世界一の日本。しかし平均寿命と健康寿命の間には、男性で9年、女性で12年の「人の手を必要とする期間」があります。いつまでも元気で自立した人生を送る「健康長寿」がORTICのテーマ。そのテーマにふさわしい新製品ができました。



すっぽんの力を知った出来事

昨年ベトナム出張の際、知人からいただいたすっぽんのサプリを飲んでみました。ベトナムで初めての展示会で、私と重富は3日間立ちっぱなし。最終日の夜にベトナムを発ち、夜中にタイで乗り換え、翌朝、福岡空港へ着きました。その日は休むつもりでしたが、不思議なことに疲れが全くなく、そのまま出社して一日中勤務することができました。いつもと違ったのは、すっぽんのサプリを飲んだことだけ。すっぽんの疲労回復効果に驚き、新商品の開発へ動き始めたのです。(印藤)



すっぽんと梅肉黒酢の相乗効果

すっぽんは古来から滋養強壮・疲労回復のための素材として用いられてきました。近年では、コラーゲンを形成するアミノ酸・ヒドロキシプロリンを多く含み、肌質改善効果があることも知られています。また眠りのアミノ酸と呼ばれるグリシンも豊富で、睡眠の質を上げ、朝の目覚めをよくすることもわかりました。ORTICはこうしたすっぽんの効能を活かすため、梅肉黒酢と配合することを考えました。梅肉黒酢の血流改善効果ですっぽん成分を身体の隅々にまで行き渡らせることができるからです。

梅肉黒酢の優れた特性そのままに、すっぽんのパワーを合体させた「すっぽん梅肉黒酢」は、次のような効果が期待できます。

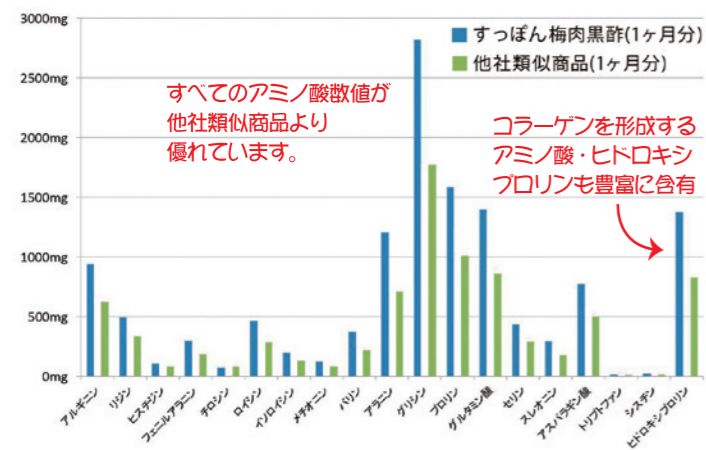
黒酢・梅肉エキス

血流改善・コレステロール値の改善・肩こりの軽減・血圧の正常化

国産すっぽん粉末・すっぽんオイル

滋養強壮・疲労回復・持続力の向上・肌質改善・乾燥予防・睡眠の質の改善

使用しているすっぽんは、自然に近い外池で育てた国産すっぽんのみ。豊富な栄養素を失わないよう低温・短時間乾燥した後、丸ごと粉末化しました。また1匹のすっぽんからわずかししか生成されない、希少なすっぽんオイルも配合。すっぽん粉末との相乗効果が期待できます。



ORTICスタッフも体感しています!

代表・印藤の感想

長年、梅肉黒酢を飲んでいますが「すっぽん梅肉黒酢」との違いは1回でわかりました。熟睡できることと、日々の疲労感がなくなり、肌のツヤもよくなりました。

スタッフ・重富の感想

海外出張先でも寝つきがよく、朝の目覚めもスッキリ。基礎体力が向上している実感もあります。

スタッフ・重松の感想

体温が低く、低血圧。毎朝、体が動き出すまでに時間がかかっていましたが、今は朝から1日中筋肉の動きが軽やかです。



それ、ウソです

丸山寛之

第72回

『広辞苑』の誤解

【帝王切開術】(Kaiserschnitt ^{ドイツ}) (ラテン語からドイツ語に訳された時、切りぎざむの意のシーザーが帝王のシーザーに取り違えられた名称であるが、シーザーがこの手術により生まれたという俗説もある) = 『広辞苑』第一版(1955年発行)。

妊婦の腹部を切開して胎児を取り出す手術を意味するラテン語の「切る」を「帝王」と誤訳した。そのドイツ語が日本の医学用語のもとになった。—という「帝王切開」の誤訳を指摘する説は、わりあい早くから広く知られているが、本当はそうではない。「取り違え」たのは、ドイツではなくて日本であることが、いまではわかっている。

その話の前に、まず『広辞苑』の第二版以後の記載をたどってみよう。

【帝王切開術】(Kaiserschnitt ^{ドイツ}) (ラテン語 sectio caesarea をドイツ語に訳した時、「切る」の意の caesarea を帝王の意にとったための誤訳。カエサル(Caesar)がこの手術により生まれたからという俗説) = 第二版(69年発行)。

【帝王切開】(中世の俗説に惑わされて、ラテン語 sectio caesarea の caesarea を「切る」の意でなく、カエサル(帝王)の意と誤解し、それを Kaiserschnitt ^{ドイツ} と直訳したもの) = 第三版(83年発行)。

第三版以後は「帝王切開術」から「術」の字がとれて、第四版(91年発行)は、第三版と全く同じ記述の末尾に「という」の三文字がくっついている。「中世の俗説」が、第一版・第二版の言うカエサル(シーザーは英語読み)の出生にまつわる俗説を指すのは言うまでもない。

ラテン語 ^{セクテオ カエサリア} sectio caesarea (ラテン語の発音はローマ字読みでよい) せうだの sectio も caesarea も「切る。切り分ける」という意味なので、sectio caesarea は「切って分ける」。意識すれば「切開分娩」だろう。

丸山寛之プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書=「がんはいい病気」(マキノ出版)「読むサプリ」(明拓出版)「この酔狂な医者たち」(草思社)「ビジネスマン元気術」(日本マンパワー出版)など。雑誌「壮快」に「名医に聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」<http://www.maru-san.info/> を開設している。



古代ローマでは、妊娠末期の母親が死に瀕したとき、胎児を助けるためにこの手術(死後帝王切開)が行われた。

また、死亡した妊婦を埋葬するさい、腹部を切開して胎児を取り出した。

法律でそう定められていたというが、カエサルはそうではなかった。そのことは母アウレリアに宛てた、中年期の彼の手紙の記録が残っていることでも明らかだ。

話を戻そう。ラテン語 sectio caesarea がドイツ語に訳されて Kaiserschnitt となったのは、caesarea を ^{カエサル} Caesar と取り違えたための誤訳である。日本の現代医学はドイツ医学の移入から始まったから、Kaiserschnitt を直訳して「帝王切開」という用語ができた。

—というのが、『広辞苑』などが指摘してきた通説だが、それはウソである。

カエサル(Caesar)が「皇帝」を意味するようになったのは後世のことで、もともとは caesarea から派生した「分家」という意味だった。

なので、カエサルのフルネーム=ガイウス・ユリウス・カエサルは、「ユリウス家(ローマの名門氏族)の分家のガイウス」ということになる。

つまり、caesarea→Caesar→Kaiser で、Kaiserschnitt は、ラテン語の sectio caesarea をそのままドイツ語に移しかえただけなのである。誤訳などはしていない。

「中世の俗説に惑わされ」たのは、ドイツではなくて日本だったのだ。

なお、『広辞苑』第五版(98年発行)からは如上の誤訳説が削除されて、単に、

【帝王切開】母体の腹壁および子宮壁を切開して胎児をとり出す手術。胎児の産道通過が困難で、自然分娩が期待できない時に行う。—とだけある。

